

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成25年6月)

平成25年6月13日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間:H23.8.6~	第15回 H19.5.4~H22.8.4 停止期間 H19.5.4~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第16回定期検査による停止												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検査による停止												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定期検査による停止												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第13回定期検査中 定検停止期間:H24.1.25~	第12回 H18.11.24~H23.2.18 停止期間 H18.11.24~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)	第13回定期検査による停止												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H24.3.26~	第9回 H22.10.31~H23.3.9 停止期間 H22.10.31~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)	第10回定期検査による停止												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H23.8.23~	第9回 H22.4.18~H22.7.23 停止期間 H22.4.18~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第10回定期検査による停止												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (5月末現在)

5月	0.0%
25年度累計	0.0%
運転開始後累計	59.6%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (5月末現在)

5月	0
25年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

④ ドラム缶発生量(本) (H24年度第4四半期)

当期発生本数	837
貯蔵庫累積貯蔵本数	32,516
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H24年度第4四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,734
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 従業員登録データ(人) (6月3日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	875	2,053	58%
	刈羽村	85	171	5%
	その他	118	856	19%
	小計	1,078	3,080	83%
県外		102	749	17%
合計		1,180	3,829 (3,195※)	-
		5,009		100%
協力企業社数(社)		630		

※6月3日の協力企業構内入構者数

⑦ 来客情報(人) (5月末現在)

	5月	年度累計
地元	614	1,404
県内	764	1,525
県外	1,422	1,867
国外	20	50
合計	2,820	4,846

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
6月27日	定例の記者説明会
7月11日	次回定例所長会見

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	平成25年 3月12日	5号機	所内蒸気系（非放射性）凝縮水受けタンク内における放射性物質の検出について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 定期検査中の5号機の原子炉建屋付属棟地下4階（管理区域）において、平成25年3月11日午後2時58分頃、協力企業作業員が所内蒸気系（非放射性）の点検作業前の確認として、所内蒸気を使用した後に戻った水（凝縮水）を回収する凝縮水受けタンク内の汚染確認を行ったところ、微量な放射性物質を検出しました。 その後、当社で確認を行ったところ、検出された核種はコバルト60、放射性物質濃度は2ベクレル/cm²でした。</p> <p>（安全性、外部への影響） 所内蒸気系の大気開放配管の出口、および系統水（ボイラ缶水・ボイラ給水タンク水）の汚染確認を行ったところ、放射性物質は検出限界未満であったことから、本事象による外部への放射性物質の放出はないものと判断しています。</p> <p>（対応状況） <u>凝縮水受けタンク内から放射性物質が検出された原因について調査した結果、所内蒸気系の負荷である高電導度廃液系濃縮装置廻りの弁にシートパスが生じ、逆流により所内蒸気系に放射性物質を含む廃液が混入したものと推定しました。</u> <u>再発防止策については、高電導度廃液系濃縮装置廻りの手動弁により逆流を防止する運用に変更することとしました。また、今後の対策として、弁シートパスによる逆流が発生した配管に逆流防止弁を追加で設置してまいります。</u></p>
②	平成25年 4月3日 4月16日	5号機	使用済燃料プールにおけるゴムマットの確認について（続報）（区分その他）	<p>（事象の発生状況） 定期検査中の5号機において、平成25年4月2日、当社社員が使用済燃料プール内の定例確認を行っていたところ、使用済燃料プールの底面に四角状の物品を確認しました。 4月9日に、当該物品を回収した結果、ゴムマット（縦約23cm×横約23cm×厚さ約1cm）であることを確認しました。 当社は、回収したゴムマットに関する調査を行い、使用済燃料プール内に仮置きしていた2台の炉内清掃用フィルタユニットのゴムマットが外れていることを確認しました。 このため、4月15日までに使用済燃料プール底面の周辺を確認した結果、もう1枚のゴムマットが落ちていることを確認し、同日回収しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 物品は炉内清掃用フィルタユニットに付いているゴムマットであり、当該プールに保管されている使用済燃料の安全性に影響を与えるものではないと判断しています。</p> <p>（対応状況） <u>ゴムマットが外れた原因について調査した結果、当該フィルタユニットは水中で長期間保管しておりましたが、ゴムマットの素材が水中での長期保管に適していなかったことから水分を吸収して膨らみ、ゴムマットが変形したためネジ部から外れて落下したものと推定しました。</u> <u>また同様の炉内清掃用フィルタユニットを設置している4号機及び7号機について点検を実施した結果、ゴムマットは脱落しておりませんが、同様にゴムマットの膨らみや変形を確認しました。</u> <u>現状では本フィルタユニットを使用する予定はありませんが、今後、炉内清掃を実施する際は適切な素材を採用してまいります。</u> <u>なお、当該フィルタユニットについては、水中から引き上げて廃棄することとしました。</u></p>

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
③	平成25年 4月24日	1号機	残留熱除去系電動弁の不具合について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 平成25年4月23日、定期検査中の1号機において、残留熱除去系（B）電動弁全開全閉試験として、停止時冷却用暖機弁（電動弁）の全開操作を行っていたところ、中間開度（約90パーセント開）で停止したことを確認しました。このため、開閉試験を中止しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 当該の電動弁については、前後の弁を閉めている状態で隔離されており機能要求はなく、保安規定上の機能維持の要求もありません。外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） <u>当該電動弁が中間開度で停止した原因の調査として、当該弁の開閉操作による再現性確認や弁本体及び駆動部の分解点検、トルクスイッチの健全性確認などの調査を実施しました。その結果、再現性はなく動作不良が発生した原因の特定には至りませんでした。作動回路上、当該弁の開動作中にトルクスイッチまたはリレーが作動した場合には中間開度で停止することから、対策として、念のため当該トルクスイッチとトルクを設定する構成部品及びリレーを新品に交換することとしました。</u></p>